

授業改善プラン

地域名	南房総教育事務所	学校名	市原市立五所小学校
-----	----------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 「数と計算」では、数量関係を式に表したり、□を用いた式に表したりする問題に課題が見られた。
- 「データの活用」では、グラフや表から数値を読み取る問題に課題が見られた。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- タブレットを効果的に活用する。タブレットだけでなく、電子黒板とデジタル教科書を併用し、授業を通して「わかる」「できる」喜びを児童に実感できるようにする。
- 「まとめあげる場面」では、個別最適化を意識し、児童がまとめを書きやすい環境をできるだけ整え、自ら学び進んで考え、表現する児童の育成を行った。
- ICT 機器の効果的な活用方法を研修で学び、すぐに授業で実践できるような環境を整えていった。

3. 具体的な実践

- 「五所スタンダード」として、授業の流し方、板書の仕方、ノートの取り方、小テストなど1年生から6年生まで統一する。
- 個別最適化を意識することで、タブレットを活用しまとめあげたり、ノートにまとめあげたりと、自分に合ったまとめ方ができるようにしていった。
- 毎週火曜日の昼休みを「五所っ子タイム」とし、個別最適化の学習を目指し、児童が学習したいことを学ぶ時間とした。

4. 成果

- 「まとめあげる場面」では、まとめを書きあげる時間を確保し個別最適化を意識することで、児童は自分の言葉で自信をもってまとめを書けるようになった。また、「できる、わかった」という児童が増えた。
- 「五所っ子タイム」では、フレキシブルに学習できる環境を整えたことにより、児童が率先して学習する姿が見られた。
- 学習が苦手な児童や日本語がわからない児童など、学習の理解度に差がとてもあるが、ティーム・ティーチングや習熟度別で授業を行うことで、個別対応が可能となり、学力の底上げができた。

◆担当指導主事から

- 授業研究会では、「広げ深める」場面において、発問や話し合いによって思考を深めさせたり、キーワードを板書に残したりすることにより、「まとめあげる」場面で児童が自分でまとめを書くことにつなげ、学習内容を定着させる工夫が見られた。
- 全校体制による足並みのそろった組織的な取組が、基礎・基本の定着につながった。